

なんでやねん！

上京した先で知り合ったイケメン関西人が

俺の尻の穴を舐め舐めして喜んでいる

（年下関西人×年上関西人）

*プロローグ

「あっ♡あっ♡んっ♡んっ♡やめっ…♡やめろやあ♡な
んっで、こんなことっ♡あっ♡あっ♡んっ♡ふっ♡おっ♡
おっ♡おっ♡」

「んなこと言って、腰揺れてるやんけ♡なあ、これめ
っちゃええなあ。俺、めっちゃ気持ちえーもん。そっ
ちも気持ちよさげやし。やっぱ俺たちって相性えんち
やう？♡」

「なっ♡んっ♡っ♡そんなん、相性とかないやろ…♡ア
ホお♡んっ♡ほっ♡ほっ♡おっ♡おっ♡おっ♡」

「あるって絶対い♡はっ…っ♡」

密室で男二人、カーテンも閉め切った部屋でミツリと
ユウキは性行為に及んでいた。ミツリは自慢の金髪を
掻きあげると、はあっ♡と熱い吐息を吐いて、組み敷
いたユウキを見下ろした。

(どうして、こんなことになってしもたんや……♡)

ユウキはそう思うのに、自分を見下ろすミツリの獣のように飢えた眼光にゾクゾクした。ユウキの目の奥が♡になっているのも、ユウキ自身は気づいていない。ユウキのチンポが反応してムクムクと顔をあげる。それを見たミツリは、嬉しそうに口元を緩めた。

「なんや？チンポ勃っとるやんけ？嫌やとか、やめろとか言っというて、ホンマはヤル気満々なんちゃう？自分」

「そっ…♡そんな事、ないし♡んっ♡ふっ♡おっ♡おっ♡おっ♡」

「そうかいな？ほんなら、もっとキツイのいっとくか？ほな、いくで！♡」

「ちょっ…♡待って…♡っ！！♡」